

組合士 アラカルト

朝日新聞販売協同組合 理事兼事務局長 三浦義晴さん
みづらよしはる

組合員の感謝を励みに組合運営に取り組む

朝日新聞販売協同組合理事兼事務局長の三浦義晴さんは、長く朝日新聞社に身を置き、多種多様な業務を経験、実務の経験値を積んできた。また、中小企業組合士をはじめさまざまな資格を保有する。そういった自らの経験を踏まえて

「中小企業組合士をはじめ、資格というのは客観的に自分の実力を判断する指標だと思えます。たとえ資格取得を目的とした勉強でも、そこから自分に知識や能力が身に付けば、それは必ずどこかで活かってくるものです」と語る。

このような前向きに勉強をする姿勢は、新聞社時代に出会った先輩から学んだと言う。その先輩も常に新しい知識や能力の獲得に積極的で、たとえ年下の部下であっても、自分が知りたいことに詳しい人がいれば、「どうすればいいの」と尋ねることが出来る人だそうで、その人に尋ねられた時、「自分もずっとこういう姿勢でチャレンジを続けられる人間でいたい」と強く刺激を受けたのだそうだ。

組合運営のプロ集団を目指して

その三浦さんが当組合に赴任したの

は2010年7月のこと。まず、「組合とは何かを知るため」に東京都中央会の講習会を受講し、同年12月には組合検定試験を受験、翌年3月に見事合格を果たした。

「組合を運営する立場にある事務局職員であれば、組合は何のためにあるのか、相互扶助の理念とはどういうことかといった基本的な考え方を理解して、自分のものにする必要があります。組合士という資格は、この理念を身につけるのに最適であり、その意味で、組合職員であれば取得した方がよい資格だと受け止めています」と三浦さん。

当組合は39名の職員を擁し、そのうち三浦さんを含めて6名の組合士がいるが、さらに「組合の理念と基本を理解してもらおう」目的で、毎年、数名の職員には東京中央会が主催する運営コースの講習会受講を奨励している。

「朝日新聞販売協同組合事務局という組織が組合運営のプロ集団となって、組合員のみなさんからアドバイスを求められ、頼りにされる。そんな信頼される組織になれたらと思います」と、組合士以外にも職員がさまざまな資格取得に挑戦

し、勉強することを期待している。実際、同組合には簿記や宅建、保険業務関連資格など多様な資格保有者が少なくない。組合では多様な資格保有者への研修も実施してきている。また、月初めの職員合同部会や年末の納会など節目の会合の場で、新たな資格取得者を表彰するなどモチベーションのアップも行っている。

ちよっとユニークな朝日新聞販売協同組合

同組合は、昭和43年に当時の人材確保などに対応して戸別配達網を守るための組織として設立された、全国の朝日新聞販売店（ASA）を組織化した協同組合である。組合員は東京を中心に北海道、名古屋、九州を合わせて約1500人を擁する。組合事業も共同購買事業、各種保険事業、福利厚生事業など多角的に展開しているほか、朝日新聞本社や関連組織からの多種多様な受託事業も実施。組合運営はこれらの事業収入を基に行われている。

近年は、エコアクション21に取り組みなど、「地域と環境」をキーワードにした取り組みに熱心で、特に注力している

LED蛍光灯普及事業では、昨年は組合員の約1割までの普及を目指した。現在はこの実績を生かして国内クレジットの認証取得に挑戦中。このほか、販売店のBCP策定など東日本大震災を契機とした事業にも着手し始めている。

組合では毎年、組合員アンケート調査を行ってニーズを吸い上げるなど、社会的な変化を敏感に受け止めて「少しでも組合員のためになること」の実現に取り組んでいる。その結果が多岐にわたる事業展開となっているのだが、「組合員の事業環境は厳しいです。だからこそ、組合員のために何が出来るかを追求して、組合が忙しいのは当たり前」と三浦さん。「組合って何をしているの？」と聞かれる経験も多いため、昨年にはこれまでの「職員行動指針」に加えて「共同事業を通じてASAを支援する」という「経営理念」も策定した。組合の存在を明確にしなが、日々の活動を通じて、組合があつて良かったと組合員のみなさんから思われた。感謝が組合職員には一番の励みになります」と、「組合員のためになること」を今日も探り、実践する。

